

同好會々報

十月の總會報告

本年度の定期總會は、今春開く可き筈であつたのが、種々の都合で延び延びになり、其の間、會計係の更迭等あつて、愈々開かれたのが10月28日であつた。場所は京都市吉田町の京都帝國大學樂友會館の樓上。同日正午よりは講演場及び控室に、各國天文台にて撮影した美しい天體寫眞や本學天文臺で撮影した種々の天體寫眞原板等、多數陳列された。此の頃から既に熱心家は集まり始め、市内のみでなく大阪、神戸、紀州方面より出席された方もある。午後2時より講演會を開く。會する者百餘名、先づ竹田理學士は開會の辭に於て、天文同好會を紹介せられ、續いて同志社支部幹事飯氏の渡米談あり、當時、同氏は本會よりの紹介狀に依つて、井ルソン山、ヤーキス等の諸天文臺を見學する便宜を得られた事述べられた。最後に「天體寫眞術」の題下に山本博士は、寫眞術が天文學研究上に取り入れられて以來、これが如何に重要な役目をなすに到つたか。に就いて論じられた。拍手裡に此の講演が終つた時は、既に暮色漸やく追つて、町々に燈火が輝き始める頃であつた。

講演會が終るに直ちに本會々員のみは居残つて、總會を開いたのであるが、今年は重大な議案がなかつたので、山本會長が會の事業の發展振りに就いて述べられたのこ、池田會計が會計報告をされたのこ丈であこは會員大募集に附いて、各人の意見を交換したのこを以て、其の後は階下の食堂で、一同晚餐を共にしつゝ、山本會長を中心に、打ちこけた天文談に花を咲せた。食後更に娛樂室に移つて、此處でも亦、天文談に時の經つのを忘れる。此の日、若し晴天であつたなら、特に天文臺を公開して天體觀望を行ふ豫定であつたのだが、相憎空一面に雲が覆ひ、今にも降り出しそうな天氣だつたので、遂に此の事なくて終つたのは惜しい事であつた。斯くて、話は盡きぬが、此の意義ある會を閉じた時には、暗の中に輝く大學の時計臺の長針が、9時を可成りに廻つた頃であつた。